

## 2009年度大阪女学院中学校・高等学校事業報告

### I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

#### 1. キリスト教に基づく人間理解の深化

宗教教育については、長年の実績の積み重ねを踏まえた上で、キリスト教に基づく人間理解を深め、一人ひとりがかけがえのない存在であることの自覚を促し、生徒自らの生き方と他者とのかかわり方を学ばせる。また、入学後の保護者に対しても、保護者としてのあり方や学校理解を深める方策を検討していく。

1) 年間聖句 「知る力と見抜く力を身に付けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。」(フィリピの信徒への手紙1章9節～10節)

2) 礼拝 【中学校】 ・火、木は中学1年、中学2年、中学3年合同で合同でチャペル礼拝  
・月、水、金はクラス礼拝

【高等学校】 ・月、水、金 高校1年、高校2年、高校3年合同でチャペル礼拝

・火、木はクラス礼拝

・英語科英語礼拝 (年7回) OCC ホール

・英語礼拝 (年4回) チャペル

・特別礼拝 音楽礼拝(年3回)、イースター礼拝、母の日礼拝、  
花の日礼拝(新型インフルエンザに  
収穫感謝礼拝、クリスマス礼拝、伝道週間特別礼拝

#### 3) 修養会

J 1 7月8日(水)～10日(金) 1泊2日 2班 会場 VIP アルパインローズ・ビレッジ  
主題 「What a wonderful World このすばらしき世界」

講師 及川信先生(日本キリスト教団中渋谷教会牧師)

J 2 7月8日(水)～10日(金) 1泊2日 2班 会場 舞子ビラ神戸

主題 「心で聴く」

講師 谷本仰先生(日本バプテスト連盟南小倉教会牧師)

J 3 9月4日(金) 会場 学内OCCホール

主題 「私もまわりも大切に～あるかへんけど歩いてる～」

講師 牧ローニ先生(聖公会 聖ヨハネ教会員)

S 1 7月8日(水)～10日(金) 1泊2日 2班 会場 神戸市立フルーツフラワーパーク

主題 「神様から、愛するあなたへのメッセージ」

講師 高原剛一郎先生(東住吉キリスト教会伝道者)

S 2 11月14日(金) 会場 学内ホールチャペル

主題 「聖書の面白さ、奥深さ、再発見！」

講師 高多 新先生(日本キリスト教団神戸神愛教会牧師)

S 3 7月8日(水)～10日(金) 1泊2日 2班 会場 ユニトピアささやま

主題 「大丈夫！神が一緒！」

講師 波多康先生(聖書キリスト教会協力牧師)

KIKI さん（ゴスペルシンガー）

4) 伝道週間 9月28日（月）～10月4日（日）

主題講演講師 岩井基雄先生

（日本福音自由教会協議会清瀬福音自由教会牧師、玉川聖学院中等部聖書科講師）

5) 公開クリスマス 12月19日（土） 3回実施

6) 中学校、高等学校 宗教行事感想文集「えのき」発刊

## 2. 建学の精神の再認識と再構築

125周年を迎えるに当たって、本校の歴史を振り返りつつ、建学の精神を再認識し、教育理念の再構築に努める。そのため125周年の記念式典、記念行事などを有効に利用する。

1) 赤羽桂子さんの講演会 7月22日（水） 会場 ヘールチャペル（自由参加）

題「国際医療の援助～私の経験～」

2) 卒業生による講演会とパネルディスカッション 9月26日（土） 会場 ヘールチャペル

題「大阪女学院からの飛躍」大阪女学院からの飛躍

高橋美香さん（新潟越冬の会事務局）、加茂わかなさん（NHK 番組ディレクター）、  
山内京子さん（ニューヨーク・コーネル病院救命救急科医師）

3) 大阪女学院創立 125 周年記念式典（中学高校生 午前の部） 会場 大阪国際会議場

## II. 教育の内容

### 1. 学力向上の取り組み

本校における一貫カリキュラムの成果と課題についての検討を更に進め、各教科の学力の向上と定着を図るための検討を進める。

1) 本校における学力の充実を図るために、学力検討委員会(委員10名)を年8回開催し、具体的提案を行った。

①中学高校英語のカリキュラムを一部変更し、よりきめ細やかな学習ができるようにした。新指導要領 完全実施に向け、英語科については教科主任以外に、2010年度より3年間、カリキュラム、指導法等について考えていく研究担当者を一人置くこととした。

②2010年度より 中学全校で土曜日 12:00～12:40 を 自主学習プログラムを行う。

毎土曜日に3限後、担任・副担任の監督で40分間、生徒全員が自学自習を行うこととした。

③土曜講座について

2009年度からの6日制に伴い、土曜講座は午後に行うこととした。高校1年生に英語、数学を実施してきた。

④水曜講座について

水曜講座は高校3年生普通科文系・英語科I型の希望者対象で5.6限に古典文法を実施した。

### 2) 国際理解教育

昨年度までの本校の国際交流に関する委員会は、「帰国子女委員会」「留学委員会」「国際交流推進委員会」「姉妹校提携委員会」「海外夏期研修旅行委員会」の5つに分かれていて、それぞれが独自の働きをしてきた。この状態を一年かけて見直し、連携を図る新委員会組織を創ろうと12回会議を開いて検討を重ねた。その結果、2010年度からは名称も「国際教育委員会」として新しく出発し、「派遣サポート担当」「受け入れサポート」「カリフォルニア交流事業」

「大学留学サポート担当」「海外研修担当」の5つの事業の内容を明確にして、国際交流を深めていきたいと考えている。

①留学生の受け入れ

YFUからの年間留学生 4月～12月まで Joelle Dahm (ルクセンブルク) (S2A)

②海外への留学生としての派遣

YFUで高校3年生がアメリカへ1名、高校1年生が韓国へ1名

AFSで高校2年生がアメリカへ1名、スイスへ1名、高校1年生がスイスへ1名

EFで高校2年生がアメリカへ1名 が留学した。

③オーストラリア姉妹校留学

今年度はオーストラリアの姉妹校から日本への留学希望者がなかったため、交換留学は行わないことになった。今後の交換留学の進め方については、125周年記念式典のため来日された校長と話し合ったが、継続して話し合っていくことになった。

④海外夏期研修の実施

今年度は新型インフルエンザの影響を心配したが、何とか無事に終了することができた。

アメリカ ボストン 高校1年生 36名 (7月24日～8月14日)

アメリカ モントレー 高校1年生 29名 (7月24日～8月12日)

ニュージーランド ハミルトン 高校1年生 34名 (7月25日～8月15日)

## 2. 改変した学校行事の円滑な実施

6年間一貫教育の中で、より教育的効果を高める観点から数年間に亘って行事全体の精査、運用の見直しを行ってきたが、今年度は6日制実施に伴い、様々な学校行事が円滑に運営され、教育的な効果がもたらされるよう図る。

今年度より週6日制を実施した。定期テスト終了後の行事が実施授業時間確保、クラブ活動の充実などの成果があったが、定期試験時の土曜日の公式試合による試合出場の問題、インフルエンザによる休校に対する休日の扱いの問題などがあり、実施後も行事の調整を行った。

## 3. 生徒の人権意識を深める取り組み

解放教育(人権教育)については、「私たちの人権感覚を問い直そう」—一人ひとりを大切にしよう—という教育目標の下で、一人ひとりが大切にされる解放教育を目指す。また、世界の人権状況と人権獲得の歴史を学び、守り、発展させていく意味を考えさせ、各学年の成長過程に応じて、生徒自らの人権意識を深める取り組みをテーマを決めて行う。またインターネットの扱いやいじめの問題に対する生徒の問題意識を更に深める。

1) 「私たちの人権感覚を問い直そう—一人ひとりを大切にしよう—」という教育目標の下で、各学年別年間目標をたて、実施した。

○学年毎のテーマ

中学1年「HARMONY～私の『音』、あなたの『音』～」

中学2年「戦争と平和について考えよう」

中学3年「戦争と平和・障がい者と人権・被差別部落とは」

高校1年「民族的マイノリティーについての学習を通じて人権を尊重する心を養う」

高校2年「多民族・他地域との共生」

高校3年「共に生きるために～今、私たちに出来ること」

○中学平和を考える日

中学3年生修学旅行平和学習感想文代表者の発表と

反戦平和に関する映画「母べえ」鑑賞

**4. 生徒の生活全般に対する指導**

生活指導については、中学・高校それぞれの発達段階を考慮しつつ、一貫した原則の下に生活全般について指導を行い、現代社会が生じさせる個々の問題に対し具体的な対応をしていく。特に基本的な生活習慣・社会のルールを身に付けるよう指導する。時間、物の管理、服装や身だしなみ、礼儀、公共のマナーや美化などについて、周りを配慮して行動できるように指導する。

1) 遅刻指導をはじめ、身だしなみの指導、移動教室の施錠確認や授業時間中の巡回、放課後の教室の整理整頓の見回り等、きめ細かな学年の指導により、学校生活は落ち着いている。

一部の生徒の登下校時のマナーの悪さに対して一般の方から苦情が来ることがあるが、その都度全体に注意をしている。公共のマナー、ルールを自らの意志で守り、周囲に配慮をもって生活していけるよう指導を続けたい。

**Ⅲ. 教育の実施体制**

**1. 生徒の安定的な人数確保のための取り組み**

今後とも長期的に続く少子化への対応、大阪府の公立学校改革への対応を検討する。また、中学入学者の人数確保を安定的に行っていくため、中学の入試結果の集計や分析を更に充実させ、次年度の入学予定者の把握に役立たせると共に、受験生の保護者の学校理解を深める。高校入学者の増加を計るため、公立中学校の訪問等具体的な方策を継続する

1) 2009年度在籍者(2009年4月1日現在)

	1年	2年	3年	合計		1年	2年	3年	合計
	230	261	218	709	普通科	233	215	186	634
					英語科	80	75	85	240
					休・留学	3	3	1	7
	中学・高校合計			1590		316	293	272	881

2) 2009年度中学入試報告

①兵庫の私学、大阪府内の競合校が本校の入試日と重なり、短期集中の傾向が昨年よりさらに強まった。その影響は、本校の受験者の動向にも強く現れた。

②本校は前期1月17日、後期1月19日として実施。

(3)入学手続後の辞退について  
毎年入学手続後の辞退者数の予想は、困難を極めるが、今年度は、32名の入学辞退者が出た。

(4)結果として、中学1年生は230名の入学者となり、6クラス体制を厳守することができた。現在の中学2年生はすでに7クラス体制であり、旧リーディングルームは特別教室として使用できるようになったが、旧多目的室はHR教室として引き続き、使用することとなった。

募集人数		210名			
		前期/18(日)	後期/20(火)		
		A方式(専)	B方式(併)	併願	
出願者数		461名	138名	303名	902名
欠席者数		16名	4名	220名	240名
受験者数		445名	134名	83名	662名
合格者数		(1.29倍)	(1.09倍)	(2.08倍)	実質倍率
	当初判定	344名	123名	40名	
	追加				
	計	344名	123名	40名	
手続前辞退者					
	当初判定	116名	99名	35名	
	追加				
	計	116名	99名	35名	
入学手続者					
		228名	24名	5名	
手続後辞退者					
	当初判定	22名	10名	0名	
	追加				
	計	22名	10名	0名	
入学予定者					
		206名	14名	5名	
帰国生入試					
		5名			
入学予定者					
		230名			

3) 2009年度高校入試報告

2010年度高校入試は、民主党政権のマニフェストに盛り込まれた「高校授業料無償化」の問題が、生徒募集にどのように影響するかが気になりつつ実施された。政府とは別に橋下大阪府知事もこの問題に関しては独自の姿勢を示したが、結論が出ないままの私立高校入試に突入となった。

入試の結果は以下の表のようになった。

	科・コース	内部進学者	高校入試募集人数	高校入試受験者		高校入試合格者		高校入試入学者	
				第一志望専願	併願	専願	併願		
特別入試	普通科(文系)	158	約60名	15	27	22	46	31	
	普通科(理系)	39		4	29	2	20	4	
	英語科	64		17	64	12	54	16	
	普通科(文系)			1	専願	1	1		
	普通科(理系)	1		専願	1	1			
	英語科								
	合計	261			158		158	53	

受験者数は、昨年度より 13.6%の増加であった。内訳は専願で6名、併願で11名が増加した。

本校は外部募集60名に対して前年比8%増の53名が入学した。入試対策室及び入試委員の地道な努力が、受験生の増加に繋がってきていると思う。

私立学校に取っては大変厳しい時代を迎えているが、本校の大切にしている教育方針を受験生と保護者に理解してもらうために、さらに努力していきたい。

2010年度の入学試験は新型インフルエンザの影響が大変心配されたが、感染をした受験生はいなかった。追試験の準備もしたが、受験する者もなく無事終了できたことは幸いだった。

4) 編転入試験

編転入試験により中学1年生6名、中学2年生1名、高校1年生3名の入学を認めた。

5) 募集対策

①中学関係

- 第1回オープンキャンパス 5月 2日(土)
- 第2回オープンキャンパス 6月13日(土)
- 第1回中学入試説明会 10月 3日(土)
- 第2回中学入試説明会 11月14日(土)
- 保護者対象入試説明会 12月 5日(土)
- 関西日曜教室 5月23日(土) 新型インフルエンザによる休校のため中止

②高校関係

- オープンキャンパス
- 第1回中学入試説明会 9月12日(土)
- 第2回中学入試説明会 11月 7日(土)
- 入試個別相談会 12月 5日(土)
- 教師対象高校入試説明会 10月19日(月)

③その他

塾対象説明会(中高合同)チャペルにて 7月14日(火)

塾主催の説明会への積極的参加

私学展参加 8月15日(土)～8月16日(日) OMMビル

大阪私立女子中学フェア参加 6月21日(日) 御堂会館

## 2. 中学・高等学校図書館教育の実施体制

中学校・高等学校の教育・研究・学習を支援するために、資料・情報を収集し、整理、保管、提供を行う。

### ①蔵書の充実

- ・.新「学習指導要領」実施にともなう資料の収集。
- ・学力低下や様々な背景や多様な要望をもつ生徒を教育するために必要な資料の収集。
- ・多彩な学校行事（遠足、修学旅行、文化祭など）に利用できる資料の収集。
- ・生徒の学習に役立つ資料や生徒の知的好奇心をかきたてる資料の収集。

### ②利用教育

学習や個人的にインターネットを利用する時の著作権や注意点を分かりやすいようにホームページや印刷物で紹介。

### ③各委員会、例えば解放教育委員会と連携して年間計画に従い教材の資料収集の援助、資料展示、資料の探し方を紹介する。

## 1) 図書館の資料を利用する授業

高校1年生「現代文演習」の授業でディベートのため、また、高校2年生英語科「異文化理解」で情報収集のため図書館で授業をおこなった。

## IV. 生徒支援

### 1. 生徒の自己実現を促す進路指導

進路指導については、在校生が進路選択をするに当たり、自分の将来を設計し、その実現に向けて少しでも近づけるように、指導、助言をする。

- ①年間指導計画に基づいて、必要な情報を生徒・保護者に提供し、生徒の進路意識、学習に対するモチベーションの向上を図る。
- ②実力テスト、スタディーサポート、学力推移調査等により、生徒の学力や学習・生活実態を調査、分析し、進路委員会、学力検討委員会が職員会議等に生徒の学力向上の為の方策の提言を続けていく。またこれらの資料を活用して、生徒に対してそれぞれの目標に向け努力ができるよう行っている面談を更に充実させる。
- ③高大連携を促進する。
- ④資料の整備や留学コーナーの設置、進路相談等、進路室利用の活性化を図る。
- ⑤高校3年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成する。

#### 1) 各学年の進路指導実施状況

- |      |  |
|------|--|
| 中学2年 | 生徒、保護者進路説明会(9月)                          |
|      | 生徒、保護者進路説明会(3月)                          |
| 中学3年 | 生徒対象普通科文系・英語科説明会、普通科理系説明会(4月)            |
| 高校1年 | 第1回 進路説明会(進路選択と教科選択)(6月)                 |
|      | 第2回 進路ホームルーム(オープンキャンパス参加準備)(6月)          |
|      | 第3回 進路ホームルーム(オープンキャンパス発表)(9月)            |
|      | 第4回 生徒進路説明会(進路選択と学習)(10月)                |
|      | 第5回 生徒進路説明会(高校3年の進路状況)(2月)               |
| 高校2年 | 第1回 生徒、保護者進路説明会(卒業生の進路状況と教科選択)(6月)       |
|      | 第2回 生徒進路説明会(模試データの見方と目標と教科選択)(10月)       |
|      | 第3回 生徒進路説明会(高校3年の進路状況)(3月)               |
| 高校3年 | 第1回 進路説明会(調査書について)(4月)                   |
|      | 第2回 生徒、保護者進路説明会(卒業生の進路状況と進路全般説明)(4月)     |
|      | 第3回 生徒進路説明会(センター試験、AO入試、自己推薦入試説明)(6月)    |
|      | 第4回 生徒進路説明会(指定校推薦入試、調査書請求について説明)(8月始業式後) |
|      | 第5回 進路ホームルーム(公募制推薦・センター入試出願説明)(9月)       |
|      | 第6回 生徒進路説明会(センター試験自己採点と小論文説明)(1月)        |

#### 2) 実力テスト関係

- |      |                              |
|------|------------------------------|
| 中学1年 | 学力・推移調査(4月)(12月)(3月中学2年生用)   |
| 中学2年 | 学力推移調査(12月)(3月中学3年生用)        |
| 中学3年 | 学内実力テスト(4月)(11月)、学力推移調査(11月) |
| 高校1年 | スタディーサポート(4月)(9月)(3月)        |
|      | 実力テスト(11月)(1月)               |
|      | 小論文ガイダンス(11月) 小論文テスト(1月)     |
| 高校2年 | スタディーサポート(4月)(3月)            |
|      | 実力テスト(7月)(10月)(1月)           |

小論文テスト（9月）（1月）

高校3年 実力テスト（5月）（6月）（9月）（10月2回）

3) 普通科文系、普通科理系においてそれぞれ高大連携を促進した。

文系 神戸女学院大学（人間科学部）、関西学院大学（商学部）、関西大学（法学部）、  
同志社女子大(学芸楽部 情報メディア学科)

理系 大阪大学（理学部生物学科）、大阪府立大学（農学部）、理系セミナー 3月

4) 資料の整備、進路室利用の活性化に務めた。

5) 高校3年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成した。

・進路先冊子・卒業生からの進路アドバイス冊子配布

6) 進路結果の概要は以下の通りである。

《進路結果の概要》

2010年卒業生 進路状況

(最終進路)

	進 学					就職	その他	合 計
	大 学	短 大	専門学校	留 学	予備校	就職	その他	合 計
人数	220	15	4	2	31	1	1	274
%	80.3	5.5	1.4	0.7	11.3	0.4	0.4	100
%	85.8							
%	87.2							
%	87.9							
%	99.2							

	大学	短大	その他	合計
普通科	151 (78.7%)	11 (5.7%)	30 (15.6%)	192
英語科	69 (84.1%)	4 (49%)	9 (110%)	82

2010年度大阪女学院大学・短大合格者数

大阪女学院大学・短期大学 入試結果

2010年卒の内訳

入試方法	受験者数		合格者数	
	大学	短大	大学	短大
学内（専願）	3	6	3	6
選抜（併願）	4	6	4	6
一般	2	0	2	0
Academic Interview/モティベーション ステップ アップ	0	0	0	0
合計	9	12	9	12

## 2. 心身の健康と安全を守るための生活指導と生徒支援

- ①自分自身の心身を健康に保つ方法を身につけるように指導する。そのために保健室・教育相談室（学校カウンセラー）と連携し、生徒・保護者をバックアップする。
- ②授業・学級活動・生徒会活動・その他の活動が安全かつ充実したものになるように警備・巡回に努める。
- ③学校外での生徒の事故やトラブル、迷惑行為等の窓口となり対応する。
- ④また、いわゆる広汎性発達障害生徒への学内における特別支援教育のあり方を検討し具体的な方策を検討する。

### 1) 自分自身の心身の健康を保つ（保健室・教育相談室との連携）

- ・不登校・不登校傾向生徒をはじめ、学校生活の様々な場面で困難を覚える生徒がいる中、学年と保健室、教育相談室とが連携をとりながら対応にあたってきた。発達障がいのある生徒のための支援が必要である。そのために支援教育委員会、サポートルームを2010年度からスタートするべく準備を行った。外部アドバイザー、支援教育指導員を求め、支援教育要領、サポートルーム施設（図書館のグループ閲覧室を時間を切らせて使わせていただく）、整備、ルール作り、支援教育委員会の働きについては他校見学、全教職員向け講演会を2008年度末より3回にわたって行い、中高教職員全体で支援教育を進めていく体制を作りつつある。
- ・インターネット・メールがらみのトラブルを防止し、保護者の責任を明確にして、学校との連携を図るため、ネット利用のマナーや注意事項をまとめた冊子を今年も中学・高校から入学の新1年生に配布した。
- ・携帯電話について、中学においては昨年度より保護者の申し出による「許可制」とし、生徒自らが責任をもって管理できるように指導することとした。高校生は今まで通り、許可制はとらず、自己管理を徹底し、授業中の利用などの違反者に対しては携帯を預かり、保護者に連絡し返却する方法をとっている。

### 2) 生活指導講演会実施実施状況

4月9日（木） 中学・高校1年生対象 鉄道警察隊による「安全教室」

4月13日（月） 支援教育に関する教職員研修会その2「発達障がいの支援～概論と実践」

講師 谷 均史先生 NPO 法人特別ネットワーク 副理事長

2月24日（水） 支援教育に関する教職員研修会その3

講師 木下忠恭先生 和歌山市教育相談センター長／臨床心理士  
来年度より本校支援教育アドバイザー

3月12日（金） 中学1年生対象 松原高校 「るるくめいと」による性教育講演

3月16日（火） 高校2年生各HRにて「薬物乱用防止教室」

大阪府健康医療部薬務課麻薬独劇物グループ作成の冊子を使って

## 3. 中学・高校としての図書館機能の充実

中学校・高等学校の教育・研究・学習を支援するために、資料・情報を収集し、整理、保管、提供を行う。

### 1) 文化祭で高校2年生が2つの展示をおこなった。

図書委員有志と文芸部と科学部有志との協同でデジタル絵本を3冊作成し、ナレーションをつけて、来場者へみせた。同時に、高1、高2のクラスで「好きな絵本」のアンケートをとり、結果を展示した。

## V. 改革・改善

### 1. 組織の再構築と運営方法の見直しの継続

大阪女学院における中高一貫教育の教育内容を絶えず深化させていくために教職員の意識の共有化を行いつつ、組織の再構築と運営方法の見直しを続ける。また新しく位置づけようとしているそれぞれの職務に対して、その責任範囲についての理解が深められ、定着するまで研修会を行い、新体制への移行を円滑に実施する。

1) 組織の再構築と運営方法の見直しについて活発な議論が行われ、研修も行った。中学高校教職員の代表と中学高校の校長（理事）、教頭、事務長による校長・教頭・部長選挙規定改正委員会（中高教員組織新委員会）を3回開催した。

### 2. 6日制の円滑な運用と効果の確認

2009年度から1校時50分の週6日制が実施されるが、その円滑な実施を図り、授業の実施状況、中学生のクラブ参加状況など、6日制による変化を分析し、その効果が顕著になるよう導く。

1) 今年度より週6日制、50分授業を実施した。定期テスト終了後の行事が実施授業時間確保、クラブ活動の充実などの成果があったが、実施後も行事の調整が必要となった。また、教職員の労働加重に関する問題、生徒の授業時間確保など課題も出てきた。

### 3. 学校評価「自己評価」の実施をうけて

2007年6月の学校教育法の改正を受け、2008年度には学校評価の「自己評価」実施が義務づけられ、学校目標についての「自己評価」を行った。その結果を分析し、明らかになった問題点についての改善を進めていく。

また順次「学校関係者評価」「第三者評価」を実施する体制を整備していく。

#### 1) 自己評価について

基礎になる詳細な生徒アンケートは3年に1度とし、2009年度は前年度と学年推移をみたい項目、新たに質問したいものに限って実施した。

#### 2) 学校関係者評価について

2008年度に実施された学校評価(自己評価)を受け、以下のような手順で学校関係者評価委員会を組織し、上記各項目に沿って学校関係者評価を行った。

##### ①学校関係者評価委員会の発足 計3回実施

学識経験者1名(委員長)、本校保護者代表3名、本校同窓会代表2名 計6名  
陪席中学校校長、高等学校校長、中学校教頭、高等学校教頭、

##### ②学校関係者評価委員会委員長

学識経験者有澤慎一氏(日本キリスト教団八尾東教会牧師)(3)学校関係者評価委員会の開催

#### 3) 委員会内容

①学校視察始業から終業までの学校生活について視察

②学校関係者評価委員会

2008年度「自己評価」を受けて協議を行い、学校関係者評価を作成

4. 生徒の学力向上について

上記「自己評価」の中で実施した各教員についての授業評価に基づき、各教科の授業力の向上を図る。また2007年度から実施している学力推移調査(中学)、スタディーサポート(高校)の結果に基づいた個人面接や分析説明会による効果を検証し、生徒のモチベーションを図る方策を更に検討する。

1) 昨年同様、すべての授業、全教員についての授業アンケートを実施、各教員には個人結果を、各教科には教科のまとめを配布した。

教員に対しては学力推移調査(中学)、スタディーサポート(高校)の分析会をそれぞれ2回ずつ行った。学力推移調査(中学)、スタディーサポート(高校)をもとにして個人面談を4月27日(月)～5月2日(土)行った。

5. 2009年度からの新指導要領移行措置に対応する教育課程の見直しについて

中学校においては、2009年度から新指導要領移行措置が開始され、2012年から完全実施に移るが、それに伴う教育課程の見直しを行う。

1) 2012年からの完全実施に向け、各教科において、議論めている。

6. 2009年度から開始される教員免許更新制の受講支援について

2007年6月の教育職員免許法の成立により、2009年4月1日より教員免許更新制が導入されることになった。該当教員が円滑に受講ができるよう、支援体制を準備する。

1) 教職員に教員免許更新制の受講のパンフレットの閲覧ができるようにした。又充実した研修ができるように専任教員への授業料受講料の支援を行った。

7. 教職員の危機管理意識の向上

新型インフルエンザ対策を含め、生徒が学校生活を「安全・安心」して過ごすことができるよう、設備の充実と教職員の研修を行い、教職員の危機管理意識を向上させる。

1) インフルエンザ対策のため職員会議、朝礼等での連絡を密にした。また、緊急の一斉配信による通信方法として有効なFairCastを教職員全員に対して配信可能なるように徹底した。

8. 教職員の人権意識の向上

教職員の人権意識を更に深め、授業やクラブ活動での指導を問わず、日常における生徒との関わりの中で、生徒の人権に配慮した指導が十分出来るよう啓発と研修を行う。

1) 今年度は人権意識向上のため、次のような教職員研修を行った。

①「現在進行形の戦争&イラクアフガンからのレポート」

西谷文和さん(イラクの子どもを救う会代表)

② 夏期研修会報告(生活指導と共に)

③ 「世界の平和・核の現状—私たちに何ができるか」

安齋育郎さん

(立命館大学国際関係学部教授、同大学国際平和ミュージアム名誉館長)

④ 教職員フィールドワーク 「おおくぼまちづくり館」と洞村跡地を訪ねて

**9. 保護者との信頼関係を強める取り組み**

保護者からのクレームへの対応の方法や保護者との関係をこじれさせないためのコミュニケーションのありかたを研鑽し、保護者と信頼関係をより一層深める。

1) 各クラス個人懇談、クラス懇談を実施、中学においては家庭訪問実施をすすめることで保護者と信頼関係をいっそう深めた。

**10. 教職員と図書館の連携方法を考える。**

1) 図書館グループ閲覧室を2010年度から中学・高校の「サポートルーム」と共同で利用することとなった。利用方法などを中学、高校校長、教頭、支援教育指導員と話し合った。

## 2009年度大阪女学院中学校・高等学校事業報告サマリー

2010年5月10日

### I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創立125周年を迎え、記念行事を行うことによって学校の歴史を振り返り、学校の存立意義を教職員、生徒、保護者で確かめることができた。125周年を記念して発表された大阪女学院のミッションステートメントは建学の精神、教育理念の再構築をすることとなった。

### II. 教育の内容

- ①英語教育をさらに充実にしたものにするため中学高校の英語のカリキュラムを一部変更し、よりきめ細やかな学習ができるようにした。
- ②学力検討委員会を中心に学力を充実したものにするための話し合いが活発に行われた。それにより、2010年度より中学全校で土曜日の40分間の自主学習プログラムを実施、英語科教員の中でカリキュラム・指導方法についての研究担当者を2010年度より3年間おくことに決定した。

### III. 教育の実施体制

- ①2009年度入試による入学者は230名となった。高校は専願で53名の入学者であった。
- ②今年度より入試説明会に加え入試個別相談会として入試説明会を12月5日(土)に開催した。

### IV. 生徒支援

- ①発達障がい、不登校生徒など学校生活の中で支援を必要とする生徒のために、支援教育委員会、サポートルームの新設、特別指導員の配置を計画し、2010年度よりスタートさせるために準備を行った。
- ②2009年度の進路合格実績は国公立35名、関西学院大91名、関西大学48名、同志社大48名、立命館大33名であった。また、大阪女学院大学の合格者は9名、大阪女学院短期大学は17名であった。

### V. 改革・改善

- ①組織の再構築と運営方法の見直しについて活発な議論が行われ、研修も行った。中学高校教職員の代表と中学高校の校長(理事)、教頭、事務長による校長・教頭・部長選挙規定改正委員会(中高教員組織新委員会)を開催した。
- ②インフルエンザ対策のため職員会議、朝礼等での連絡を密にした。また、緊急の一斉配信による通信方法として有効なFairCastを教職員全員に対して配信可能になるよう、徹底した。

以上